Weka 入門

• Weka とは



- Waikato Environment for Knowledge Analysis
- 機械学習のアルゴリズムを実装した Java ライブラリ
- データファイルを直接操作できる GUI を持つ
- ライセンスは GNU GPL
 - プログラムの実行・改変・再配布が自由
 - ただし二次的著作物に対しても GNU GPL が適用される
- この解説では開発版である ver. 3.9.2 を使用

Weka に関する資料

- 開発者による機械学習一般の解説書
 - Ian H. Witten et.al.: Data Mining: Practical Machine Learning Tools and Techniques, Fourth Edition, Morgan Kaufmann, 2016.
- web 教材
 - Waikato 大学 Mooc: Data Mining with Weka
 - http://www.cs.waikato.ac.nz/ml/weka/mooc/dataminingwithweka/
 - ビデオやスライドを公開

勉強のためのデータセット

表 2.2 Weka 付属のデータ (一部)

データ名	内容	特徴	正解情報
breast-cancer	乳癌の再発	カテゴリ	クラス (2 値)
contact-lenses	コンタクトレンズの推薦	カテゴリ	クラス (3 値)
cpu	CPU の性能評価	数值	数值
credit-g	融資の審査	混合	クラス (2 値)
diabetes	糖尿病の検査	数值	クラス (2 値)
iris	アヤメの分類	数值	クラス (3 値)
ReutersCorn	記事分類	文字列	クラス (2 値)
supermarket	スーパーの購買記録	カテゴリ	なし
weather.nominal	ゴルフをする条件	カテゴリ	クラス (2 値)
weather.numeric	ゴルフをする条件	混合	クラス (2 値)

起動

• アプリケーションの選択



・Explorer アプリケーション データの読み込みから、特徴選 択・学習・評価を試行錯誤的に 行うのに適した操作を提供

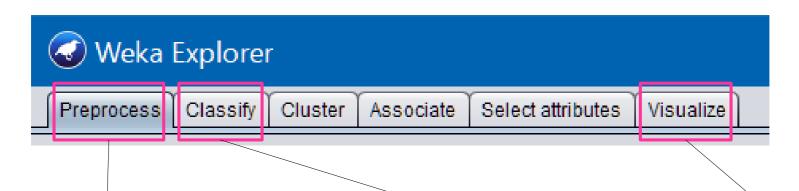
• Experimenter: ハイパーパラメータ等を変えて性能を比較実験

• KnowledgeFlow: 実験プロセスを GUI で組み立て

• Workbench: すべてのアプリケーションをまとめた GUI (カスタマイズ可能)

• SimpleCLI: コマンドラインインタフェース

Explorer での操作



- 前処理
 - データの読み込み
 - 標準化
 - 特徵選択
 - 特徴の分析

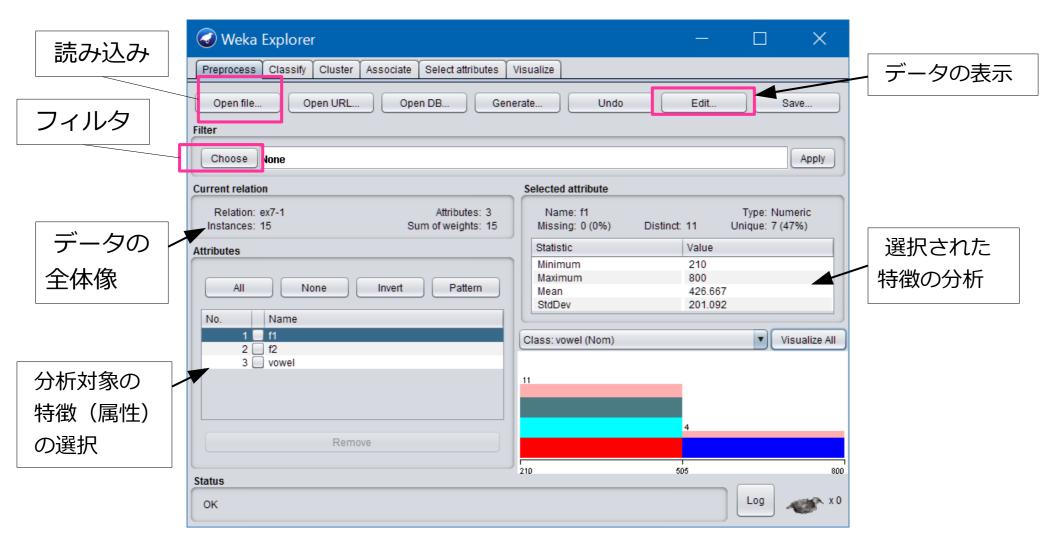
- 識別
 - 100 以上の識別ア ルゴリズムの実装
 - 学習の設定
 - ハイパーパラメータの設定
 - ・ 学習結果の評価

- 可視化
 - データの 2 次元プ ロット

Explorer での操作



- 特徴抽出後のデータを読み込む
 - いくつかの特徴の操作(フィルタの適用)が可能



- 読み込み可能なデータ形式
 - ARFF (Attribute Relationship File Format) 形式
 - ヘッダ部とデータ部で構成
 - ヘッダ部
 - @relation:データ集合の名前(ファイル名と同じでよい)
 - @attribute:特徴の各次元の名前とデータの型を宣言
 - データ部
 - @data 以降に 1 行 1 件のデータを記述
 - 各特徴・クラスラベルはカンマ区切り

• ARFF ファイルの例

```
Orelation ex7-1
@attribute f1 real
@attribute f2 real
@attribute class {a, i, u, e, o}
@data
700,1100,a
240,1900,i
240,1100,u
440,1700,e
400,750,0
```

連続値データは real

Nominal データは取り得る値のリストを中括弧で囲む

• アヤメの分類データ (iris)

萼・花びらの

長さ・幅

アヤメの

種類

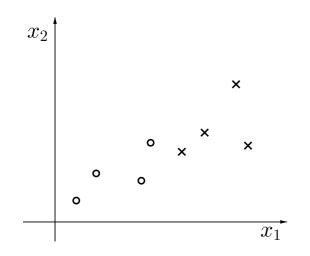
```
% 1. Title: Iris Plants Database
@RELATION iris
                    データセット名
@ATTRIBUTE sepallength
                        REAL
                                特徴名と型
@ATTRIBUTE sepalwidth
                        REAL
@ATTRIBUTE petallength
                        REAL
@ATTRIBUTE petalwidth
                       REAL
@ATTRIBUTE class {Iris-setosa, Iris-versicolor, Iris-virginica}
Q DATA
                                        これ以降、1行に1事例
5.1, 3.5, 1.4, 0.2, Iris-setosa
4.9, 3.0, 1.4, 0.2, Iris-setosa
                                      (Excel の CSV 形式と同じ)
7.0, 3.2, 4.7, 1.4, Iris-versicolor
6.4, 3.2, 4.5, 1.5, Iris-versicolor
6.3, 3.3, 6.0, 2.5, Iris-virginica
5.8, 2.7, 5.1, 1.9, Iris-virginica
```

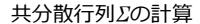
- CSV ファイルの読み込み
 - ファイル形式の前提
 - 1 行目は特徴名である
 - クラスラベルは文字列で表現されている
 - そうでないときは読み込み時に options dialog で指定

	А	В	С
1	f1	f2	class
2	700	1100	а
3	240	1900	i
4	240	1100	u
5	440	1700	е
6	400	750	0

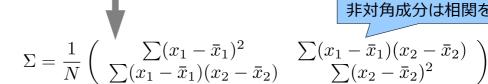
- フィルタの適用
 - 有用なフィルタのほとんどは
 weka → filters → unsupervised → attribute
 の下にある
 - Standardize:標準化(平均0,分散1)
 - 各次元に対して平均値を引き、標準偏差で割る
 - Normalize: 値を [0,1] に変換
 - PrincipalComponents: 主成分分析

主成分分析の考え方



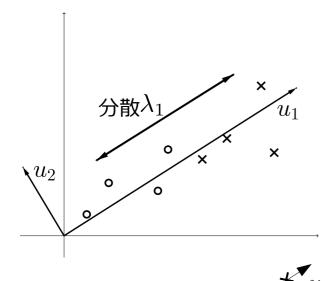


 \bar{x}_1, \bar{x}_2 :平均値、 $N: \vec{y}$ データ数



対角成分は分散、 非対角成分は相関を表す

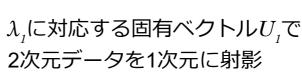
$$\frac{\sum (x_1 - \bar{x}_1)(x_2 - \bar{x}_2)}{\sum (x_2 - \bar{x}_2)^2}$$



 Σ (\sharp

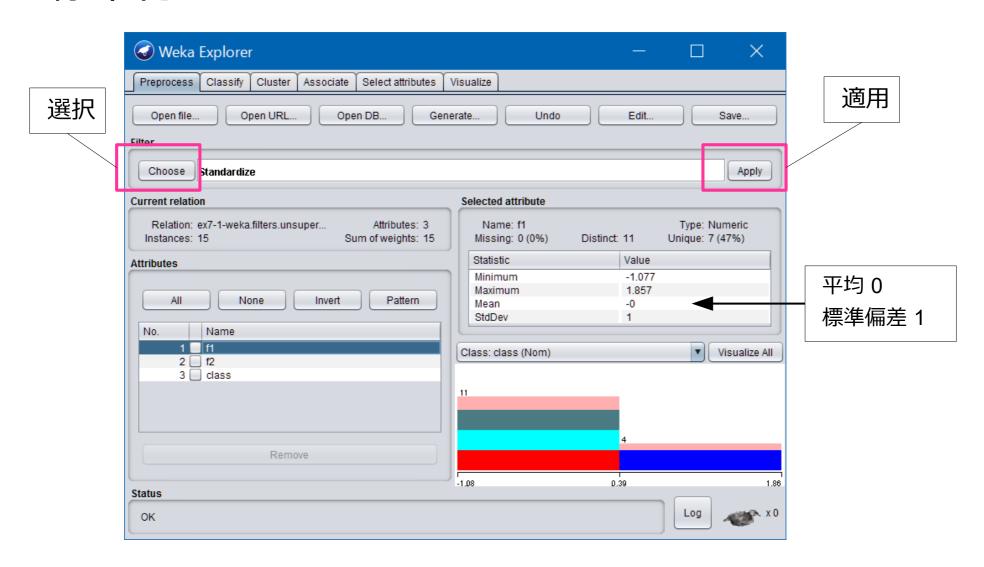
半正定値(→固有値がすべて0以上の実数) 対称行列(→固有ベクトルが実数かつ直交) であるので、以下のように分解できる

$$\Sigma'=U^T\Sigma U=\left(egin{array}{cc} \lambda_1 & 0 \\ 0 & \lambda_2 \end{array}
ight)$$
 は固有値の大きい順、 U は対応する 固有ベクトル $U_{_{I}},\ U_{_{2}}$ を並べたもの

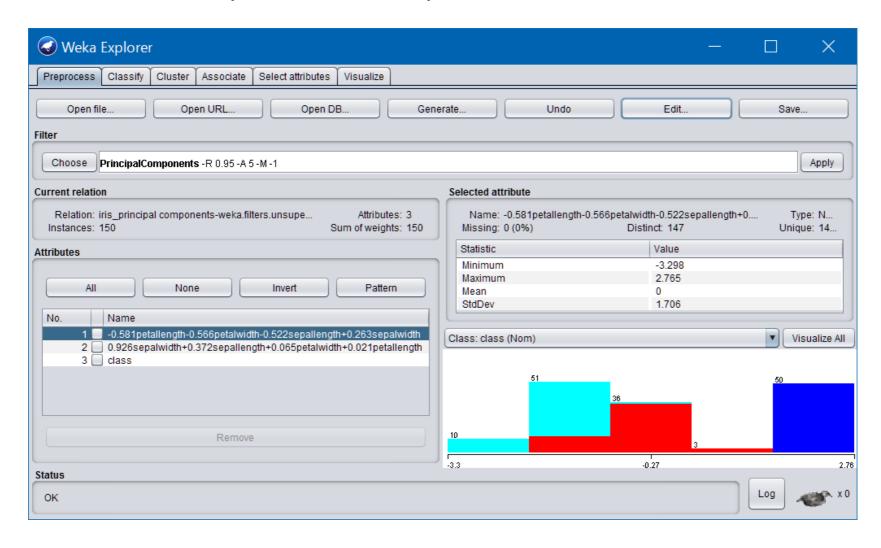


$$u_1 = U_1^T \boldsymbol{x}$$
 寄与率= $\frac{\lambda_1}{\lambda_1 + \lambda_2}$

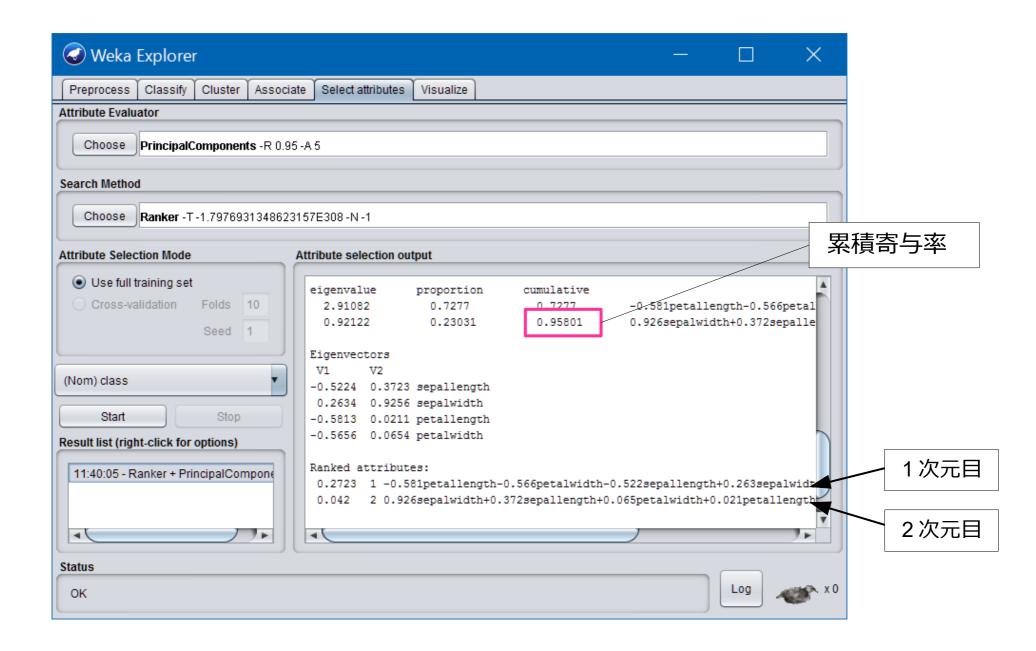
• 標準化



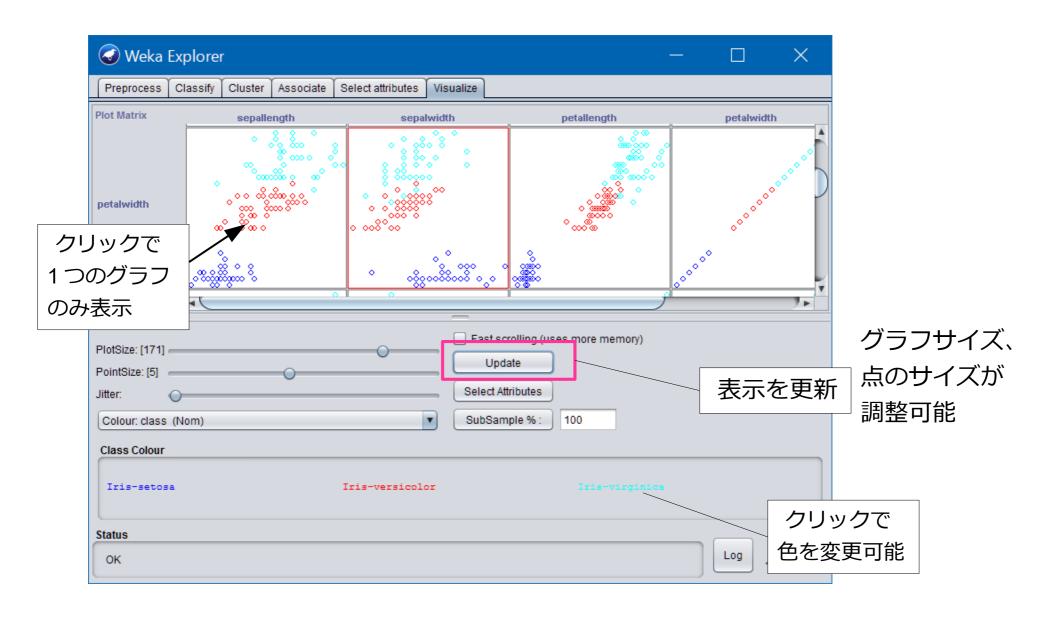
- 主成分分析
 - iris データ (4 次元特徴)を2次元に



補足 - Select Attributes での主成分分析

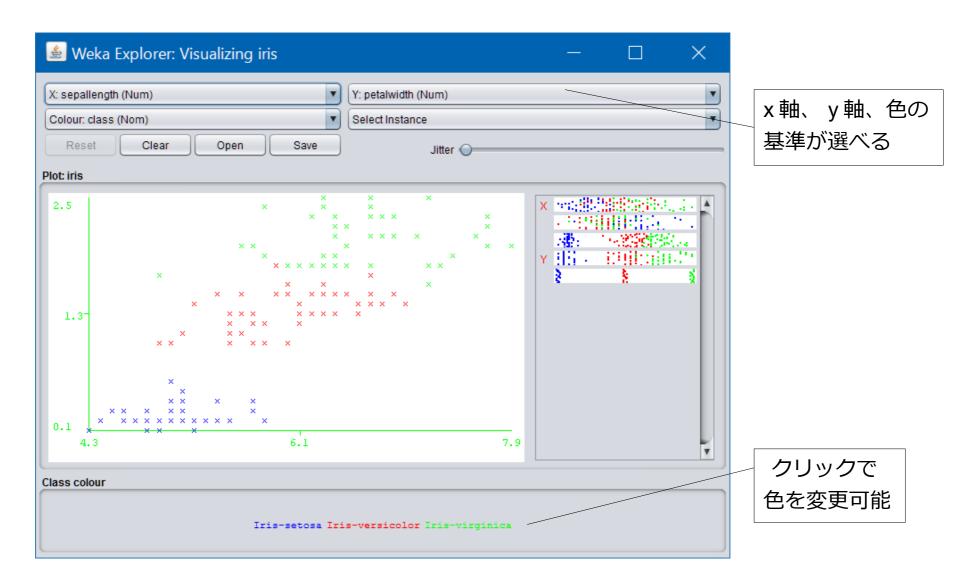


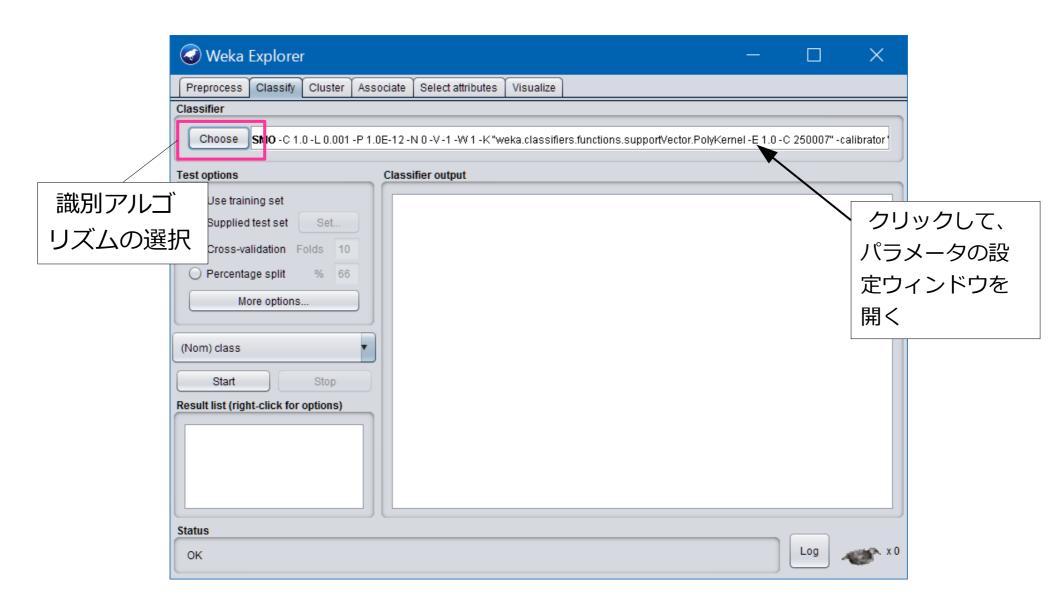
データのプロット (Visualize)



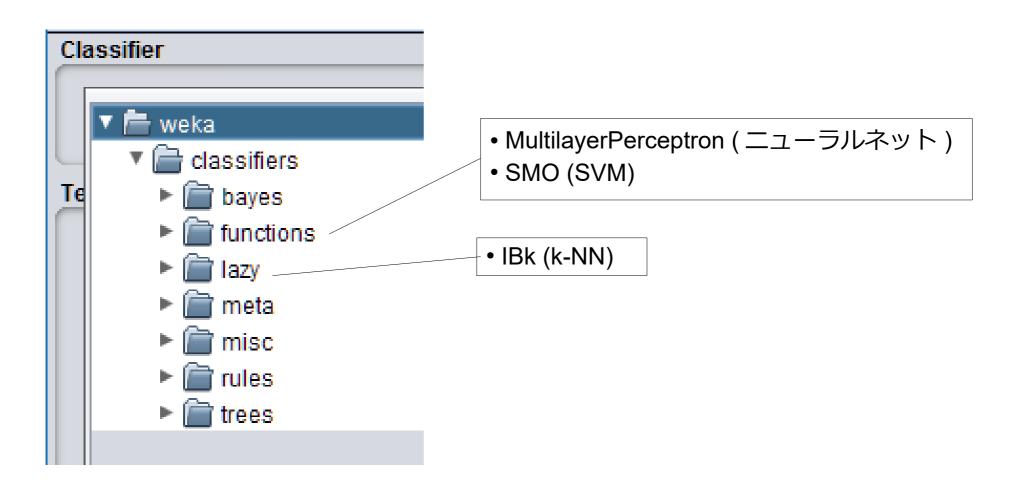
データのプロット (Visualize)

• 1 つのグラフのみ表示





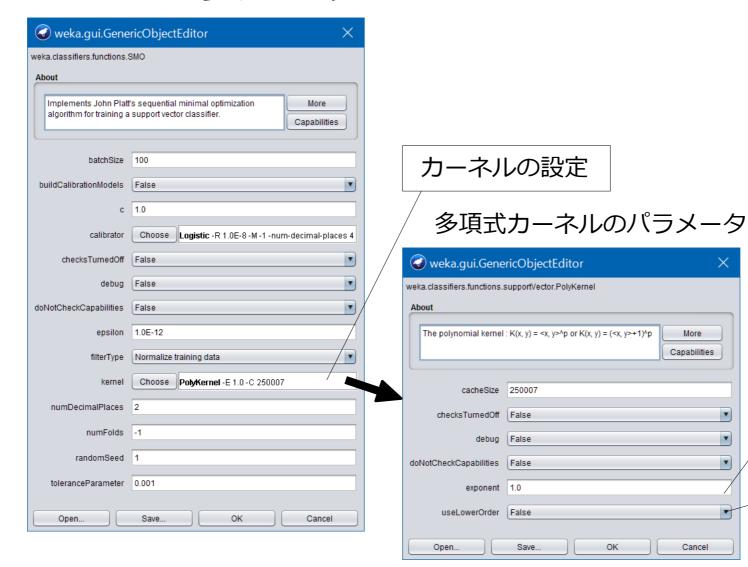
• 勉強した識別器



• IBk (k-NN 法) のパラメータ



• SMO のパラメータ



More

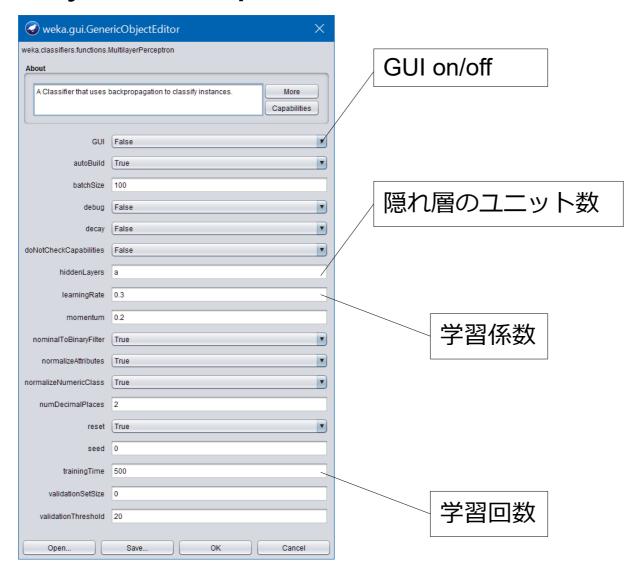
Cancel

次数

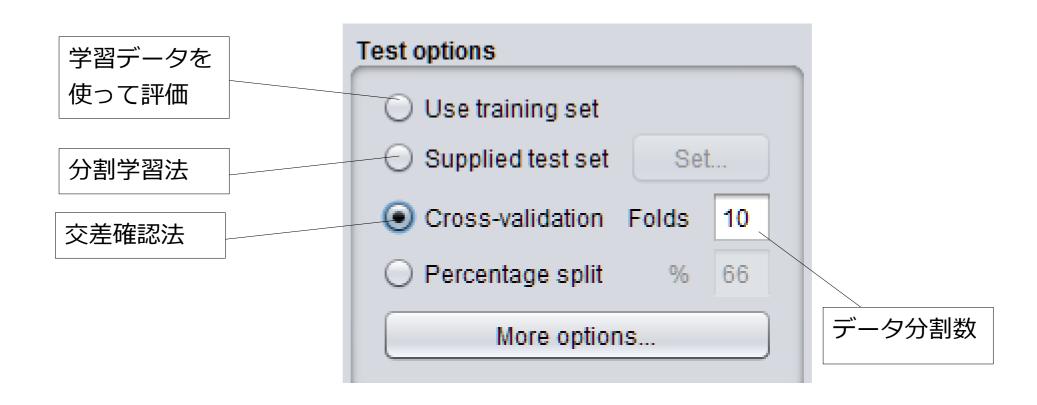
定数項

の有無

• MultilayerPerceptron のパラメータ



• 評価法の設定



• 学習結果の見方

```
=== Summary ===
```

Correctly Classified Instances
Incorrectly Classified Instances
Kappa statistic
Mean absolute error
Root mean squared error
Relative absolute error
Root relative squared error
Total Number of Instances

14 1 0.9167 0.1051 0.1645 31.4161 % 39.3051 %

```
正解率
93.3333 %
6.6667 %
```

=== Confusion Matrix ===

```
a b c d e <-- classified as
3 0 0 0 0 | a = a
0 3 0 0 0 | b = i
0 0 3 0 0 | c = u
0 0 0 3 0 | d = e
1 0 0 0 2 | e = o
```

縦方向が正解、横方向が予測 対角成分が正解数

- 学習したモデル
 - ・ 式、木構造、ネットワークの重み、 etc.
- 性能
 - 正解率、精度、再現率、 F 値
 - グラフ
 - パラメータを変えたときの性能の変化
 - 異なるモデルの性能比較

• 混同行列

	予測+	予測一
正解十	true positive(TP)	false negative(FN)
正解一	falsepositive(FP)	true negative(TN)

• **E**
$$\neq$$
 $Accuracy = \frac{TP + TN}{TP + FN + FP + TN}$

• 精度
$$Precision = \frac{TP}{TP + FP}$$

• 再現率
$$Recall = \frac{TP}{TP + FN}$$

• F i
$$F$$
-measure = $2 \times \frac{Precision \times Recall}{Precision + Recall}$

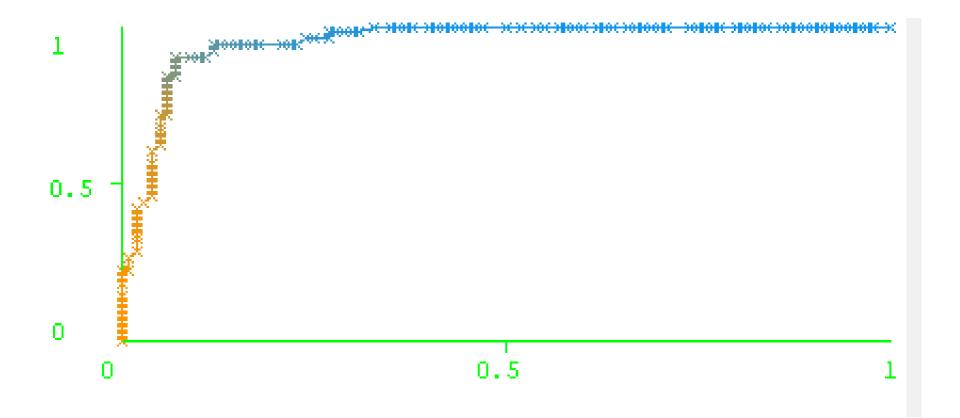
正解の割合 クラスの出現率に 偏りがある場合は不適

正例の判定が 正しい割合

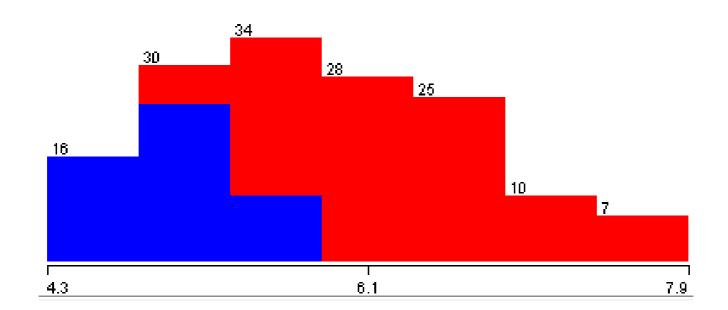
正しく判定された 正例の割合

> 精度と再現率の 調和平均

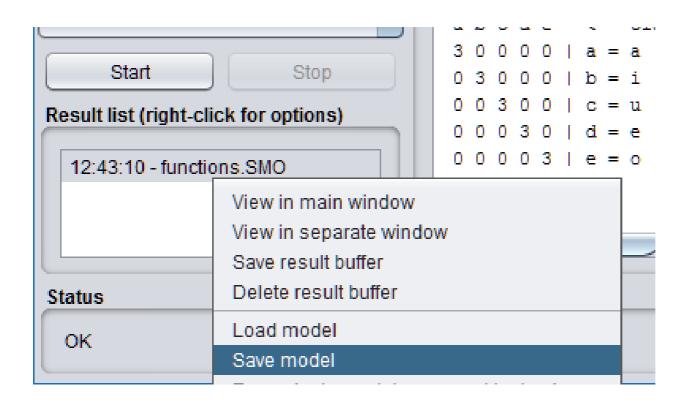
- 精度と再現率のトレードオフ
 - ROC 曲線



- 識別のための閾値の設定
 - sepallength 特徴による Iris-setosa の識別

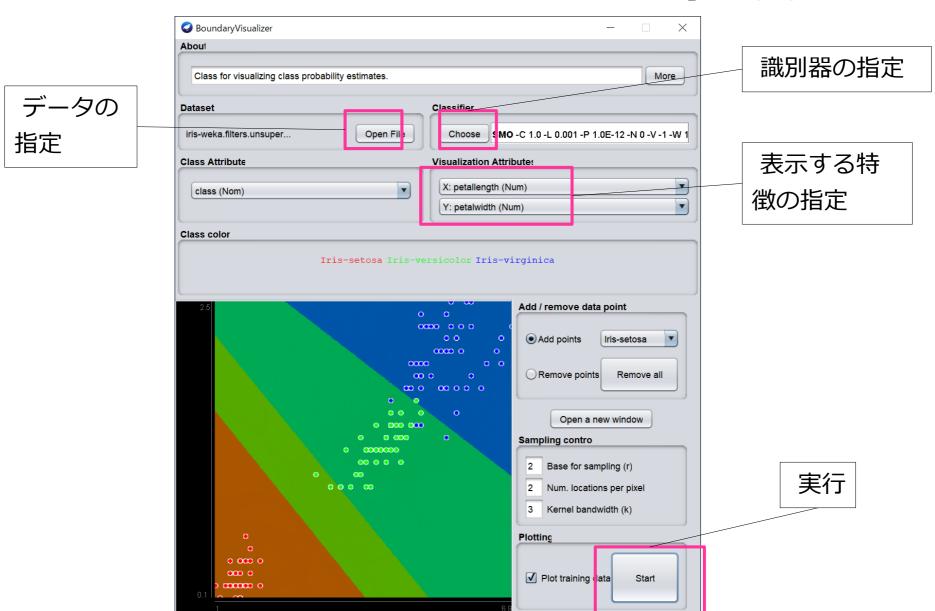


- 学習結果の保存
 - Result list の該当行を右クリック → Save model
 - Weka を使う Java プログラムでロード可能



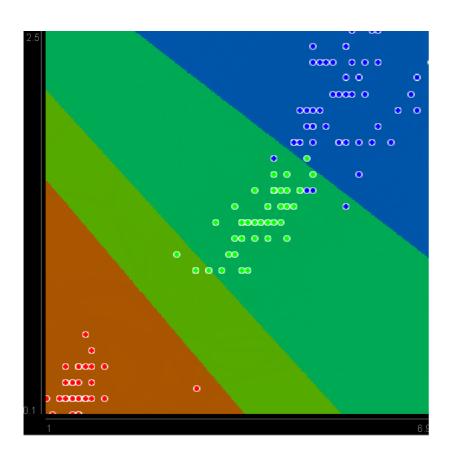
識別面の可視化 (Boundary Visualizer)

• GUI Chooser→Visualization から呼び出す

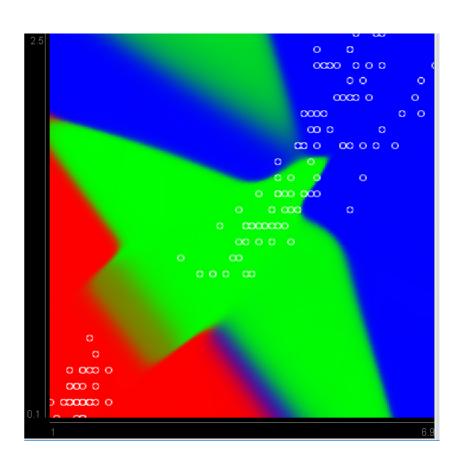


識別面の可視化 (Boundary Visualizer)

• iris2D データの識別面

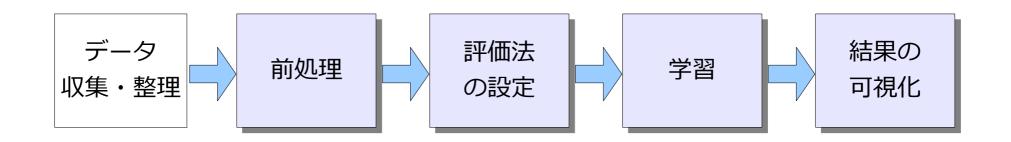


SMO Polykernel 1次



Multilayerperceptron hidenLayers=20 trainingTime=50000

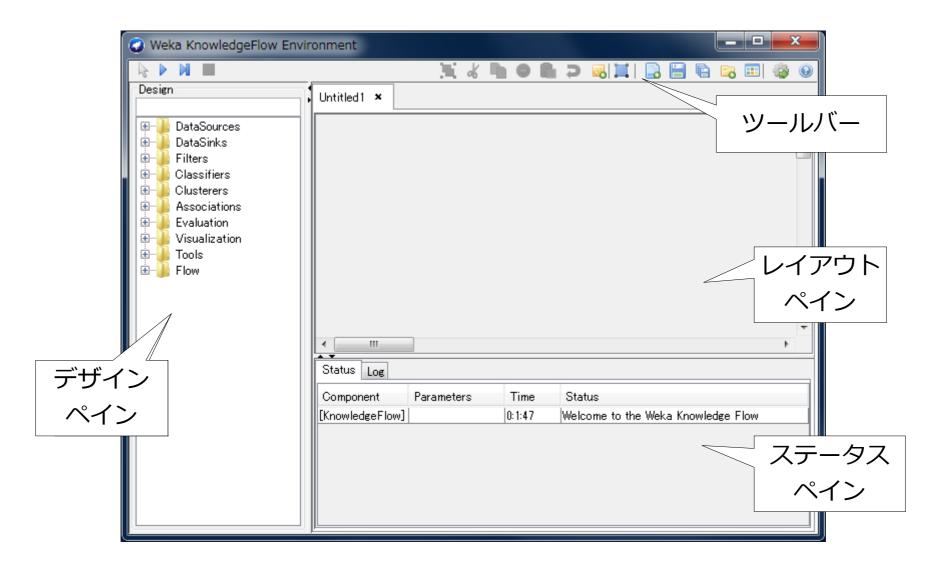
KnowledgeFlow による自動化



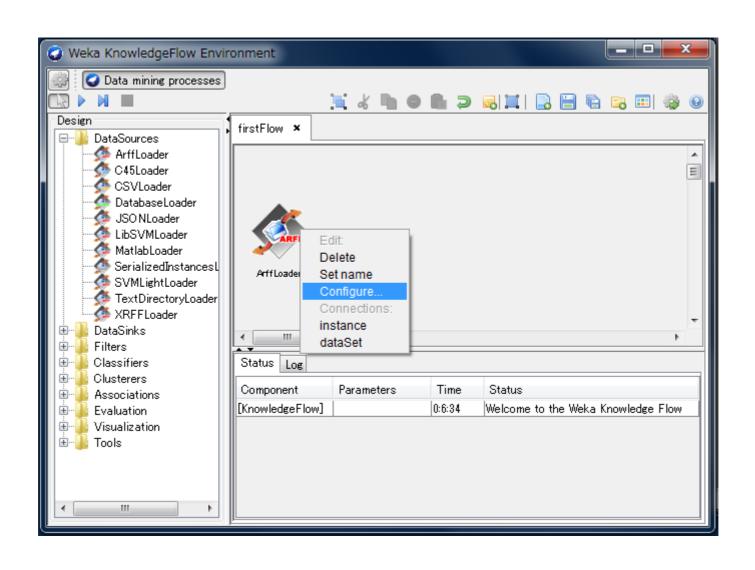
: Weka による支援が可能

KnowledgeFlow による自動化

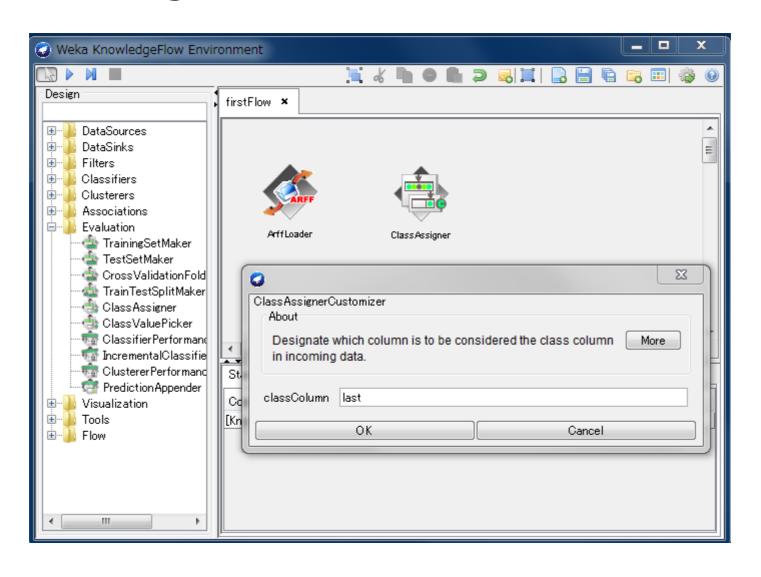
• KnowledgeFlow インタフェースの構成



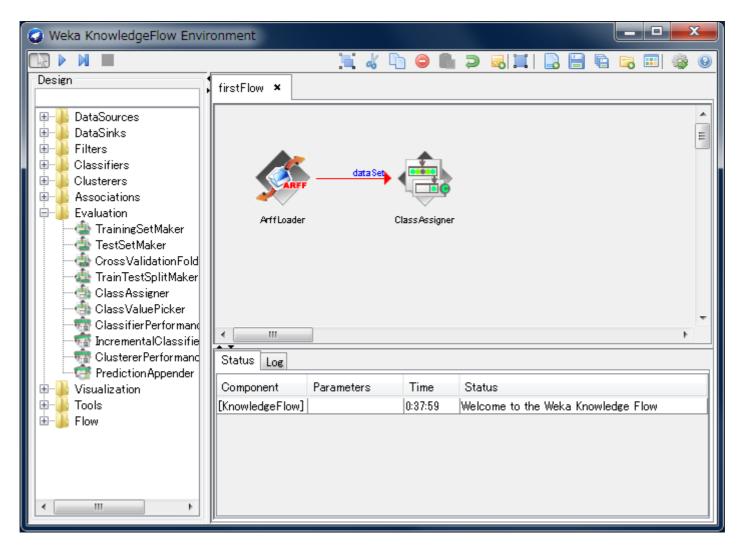
• ArffLoader の配置と設定



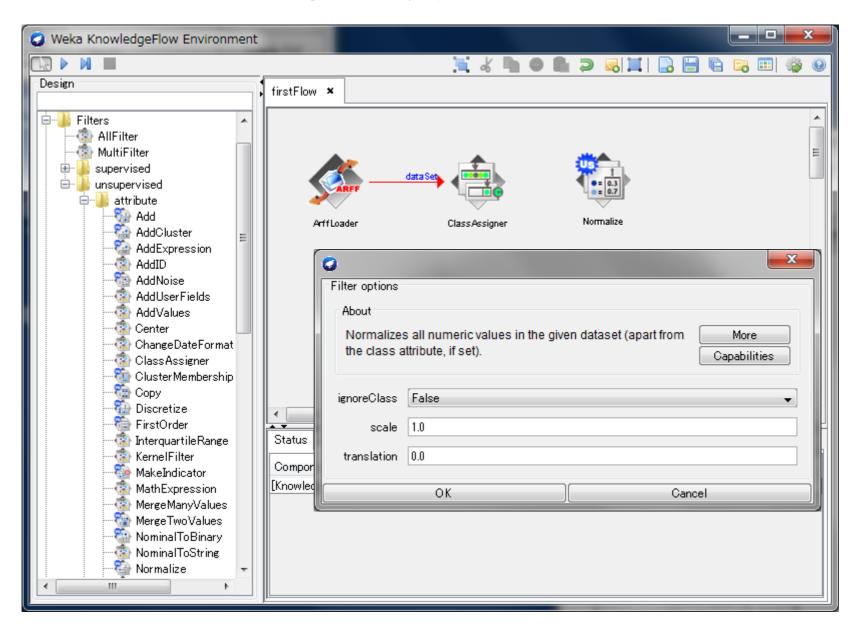
• ClassAssigner の配置と設定



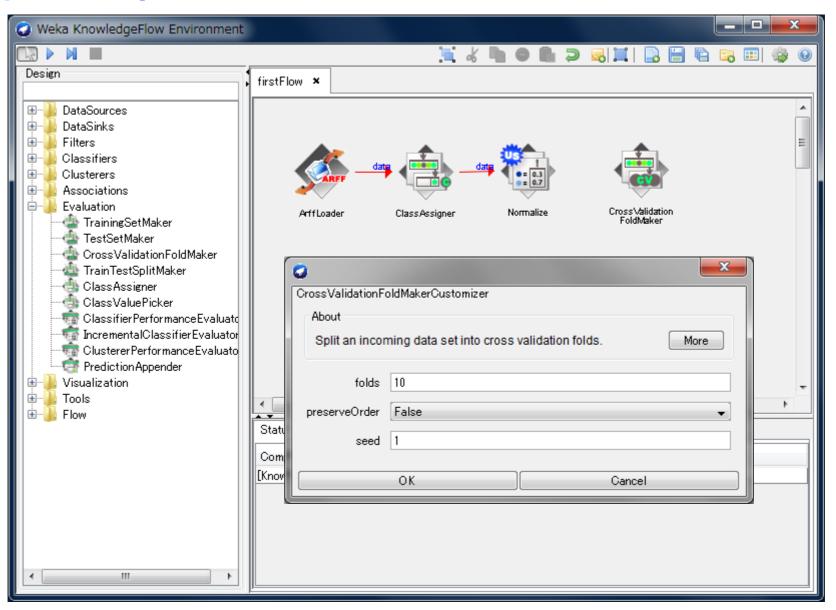
- 部品の結合
 - 受け渡す情報に気をつける



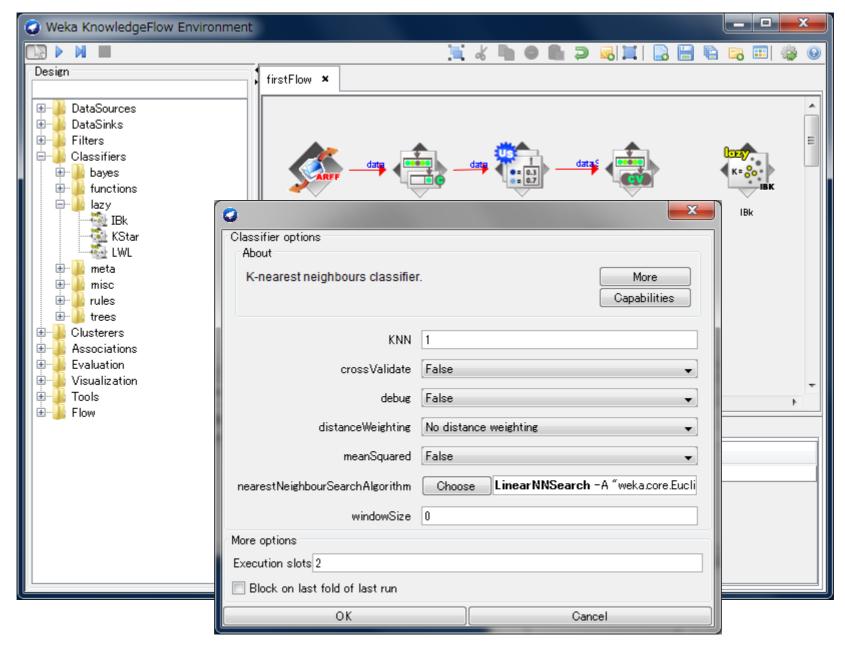
• Normalize の配置と設定



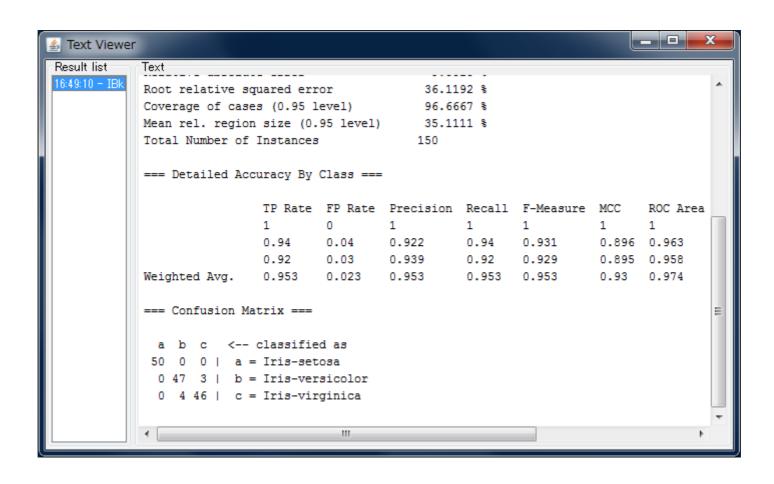
評価基準の設定







• 結果の表示



• 作成したプロセス

